

天才バカボンとその時代

僕は子供の頃、『天才バカボン』が好きだった。バカボンのパパのようになりたいと思つていた。アニメの『バカボン』も毎週欠かさず見たが、コミックも最近は見かけなくなつた貸本屋で借りて全巻読んだ。

いつも暇そうにぶらぶらしてあんまり仕事もせず、面白そう人がいると突拍子もない言動で相手や周りの人を困らせたり、怒らせたり、あきれさせたりする。時々「バカ田大学」の後輩や先輩が現われて、いつしょにムチャクチャなことをしでかす。一方で時には鋭いことを言うこともある。本当に「バカ」なのか、すべてをわかつた上で人をからかつているのかよくわからないのである。

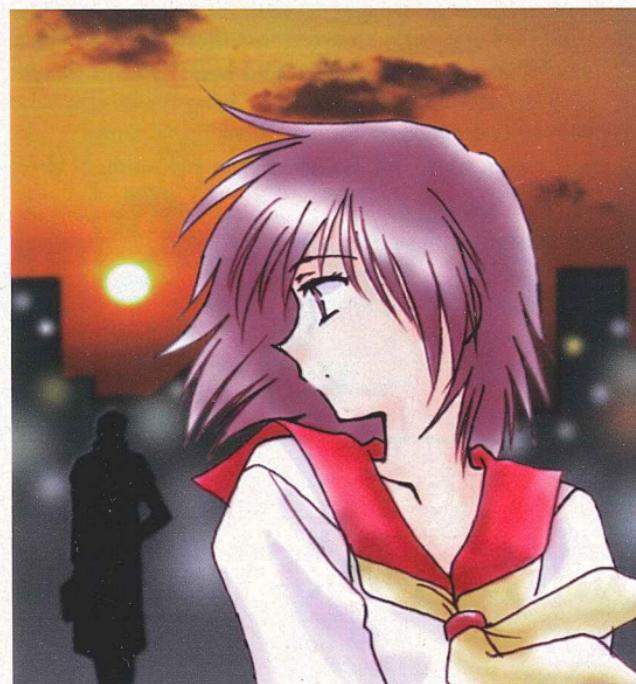
その後テレビでは『元祖天才バカボン』があり、『平成天才バカボン』があつたが、僕が年をとつてきたせいか、あんまりおもしろく感じられなくなつた。パパもただのバカなオジサンとして描かれるようになつた。

最近、一番最初のテレビシリーズの『天才バカボン』(ほんとの元祖)がビデオ化されて

いるのをレンタルビデオ店で見つけて、ようこんで借りて見てみた。

第一話の最初の部分はなかなか衝撃的である。交通事故や公害など、当時の大きな社会

問題となつていて出来事を報ずる新聞記者がおどろおどろしく画面にうつされる。その後のどこに引っ越しをしているバカボン一家の話へと入っていくのである。



Illustrated by MIYATA NAOMI

自分が子供の頃には全く気づかなかつた強いメッセージが伝わってきた(ダメージが伝わってきた)。に大人になつてないなー)。

最初の『バカボン』が読まれ、放映されていた時代は、日本本のいわゆる高度成長期の真つただ中だつた。日本中の大人が朝から晩まで一所懸命働いていた時代だ。日本が後に経済大国と言われるようになつたのはこの大人们のおかげである。(会社人間)、「仕事中毒」が多かつたのもこの頃の大人たちだつた。みんな必死に働いたおかげで日本は豊かになつた。でもその反面、交通事故の急増、工場の排出物による環境汚染なども問題になつた。

バカボンのパパはそんな日本と大人们を皮肉つてゐるのである。警鐘を鳴らしていたのかもしれない。だからバカボンは主人公にならなかつたのである。だからバカボンは主人公にならなかつたのである。警鐘を鳴らしていたのかもしれない。だからバカボンは主人公にならなかつたのである。

もう一つの背景は大学紛争や学生運動だ。その頃の大学生たちはみんな怒つていた。政治家や大学教師たちとも戦つていて。集会をひらいていつも何かを訴えていた。まじめだつた。バカボンのパパの有名な「うなのだ」という口調は明らかに学生の演説のそれだ。パロディーである(「バカ田大学」の校歌は「都の西北ワセダのとなり」で始まる)。

要するにみんなまじめで一所懸命だつた時代に「バカボン」は登場したのである。「バカボン」は高度に社会派のマンガだつたと言えるかもしれない。僕も含めて「バカボン」が世の中にふえてしまつた今日ではそのインパクトは薄れてしまつた。